

研究専攻（専門領域）		日本・アジア研究専攻		学籍番号	08CS027
氏名	孫 婷婷	ローマ字	SUN Tingting	国籍 (留学生)	中国
修士学位論文名		近代中国の都市女性服飾の変遷 —清末～30年代を中心に			
提出年月日		2010年1月12日		指導教員	牧 陽一
体裁 ()		52頁（1ページ文字数1200字）		言語	日本語
別冊添付資料等					
キーワード		更衣記 西洋化 文明新装 モダンガール チャイナドレス			
<p>服飾は人を表す。</p> <p>「清朝三百年の統治のもと、長きにわたって、女性にとって、おしゃれな服はなかった。次から次へと世代が繰り返す同じ服を着ても、女たちは飽きることがなかったのだ。」張愛玲の「更衣記」の最初では、辛亥革命前の百年の服飾の変化について独特な視点で述べ、中国百年の服飾と女性との間の微妙な関係を提出した。</p> <p>19世紀半ばに国の門が開かれて以降、中国は世界とのつながりが緊密になった。アヘン戦争は古く、閉鎖された中国を打ち破り、軍艦や大砲に従い、西洋資本主義の商業文明が逆巻く大波のごとく中国社会に押し寄せてきた。西洋の植民者の進入に伴い、中国人の思想文化、社会生活も大きな影響をあたえられた。この背景のもとで、満、漢民族の女性服飾を融合した一方、西洋服飾のスタイルの浸透に伴い、中国の都市女性服飾にも大きな影響があたえられた。</p> <p>1911年の辛亥革命は、中国の最後の封建王朝—清朝を覆し、中国の社会に衝撃的な変化を与えた。革命は中国の服飾に新たな転換を与えた。過去の身分による服飾の区別は個性と個人の審美意識を中心として変わり始めた。今回の服飾の変革をリードしたのはブルジョア革命派であった。彼らは満清王朝の服飾を封建文化の一部と見成し、旧世代の文化を破壊することによって、新しい文化を組み立てられると主張し、何千年に及ぶ服飾による身分制を消滅させ、「文明新装」といった女性服飾にもかつてない天真、快樂、愉快的な状況が現れた。</p> <p>1920年代半ばから30年代末まで、消費の発展と外来文化の衝撃により、「モダンガール」という新たなイメージが誕生した。モダンガールとは、流行の最先端に立ち、時代の最新の文明を代表し、流行のファッションを身に包んだ都市女性を指す。「五四」女学生に取って代わり、時代の代表になったのはさまざまなモダンガールである。上海に代表される都市のモダニズムがますます強くなったと同時に都市の新しいライフスタイル構造が求められた。こうした状況のもとで、モダンガールというイメージが時勢に応じて服飾にも大きな衝撃を与えた。</p> <p>清朝滅亡、民国建立、辛亥革命、五四運動、北伐戦争・・・社会変革の影響は、例外なく女性の心身に及んだ、清末から戦前まで、数十年間の政治、経済、文化的な変革が女性のイメージを変容させた。つまり、中国近代の都市女性の服装の変遷は豊かな歴史的な内容を含んでいる。</p>					